

## 国際保健医療政策人材の養成

大阪大学大学院医学系研究科  
医学科国際交流センター 副センター長  
医の倫理と公共政策学 助教

馬場幸子

2018.10.25 第77回日本公衆衛生学会  
自由集会「国際保健政策人材を増強する方策とは」

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

### 「国際保健政策人材」の定義

国際的な環境でリーダーシップを発揮できる存在(国連機関とは限らない)

国際保健政策人材の定義： 国際的な環境でリーダーシップを発揮できる人材。その機能と活動の場は決まらず、いずれも重要。色分けは今回の集計における優先順位で、機能・役割・活動の場の重複とは無関係。

機能	役割	活動の場				
		(1) 公的組織	(2) 非営利組織	(3) 教育・研究機関	(4) 営利組織	(5) 現場
(A) 組織リーダー	国際的組織幹部として組織を管理し政策を決定する	国連機関等 (国連以上)	パートナーシップ基金・NGO実行局	国際保健研修所・学部長・教員	企業国際部門責任者	自治体国際交流担当職員
(B) 規範セッター	国際的組織技術諮問委員などに参加し、国際的規範・基準を作成する	国連機関等 (国連以上)	パートナーシップ基金・NGO実行局	国際保健研修所	企業国際部門	自治体国際交流担当職員
(C) 実践リーダー	国際的プロジェクト・マネージャーなどの立場で、チームを率いて課題に対応する	国連機関等 (国連以上)	パートナーシップ基金・NGO実行局	国際関係教員	企業国際部門	現場マネージャー
(D) 実務者	国際チームの構成員として、目的の課題に対応する	国連機関等 (国連以上)	パートナーシップ基金・NGO実行局	国際関係教員	企業国際部門	現場マネージャー

■ :S (Super Priority)       従来のフォーカス  
■ :A (Advanced Priority)    ↔ 相互交流  
■ :B (Basic Priority)

注：この表はWhat to do を羅列し、Where to do を羅列にして、ある時点のありかたを表現したもので、それに従って長年の努力の全てをステップを踏んだものではない

出典：「国際保健政策人材養成3Dモデル構築案」(1ページ) <https://www.mhw.go.jp/fte/05-Shingka-10501000-Daijikanboukokuika-Kakusaku/0000124992.pdf>

### 厚生労働科学研究費補助金 (地球規模保健課題解決推進のための行政 施策に関する研究事業) H29・30年度

① コンピテンシーに基づいた国際保健政策人材の養成初期における教育ツールの開発 (代表：曾根智史)

② 国際保健政策人材増強のための国内環境整備施策に関する研究(代表：山下俊一)

国際保健政策に関する懇話会  
国際保健政策人材養成  
フレームワークデザイン  
報告書  
2018年5月12日  
(全71ページ)

系研究科

### 本日の発表内容

◎ 山下班分担研究として：  
既存の国内環境整備状況について、特に研究班立ち上げのきっかけとなった報告書で取り扱われていなかった分野に着目し、公表資料等を用いて検討した内容を紹介(現時点では発表者の考えであり、研究班としての総意ではない)  
・ 研修医制度等

◎ 本学における、国際保健政策人材養成関連の取り組みの紹介 ← 「国際」の環境暴露により確実に内なる国際化が進む

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

### 1) 研修医制度・社会医学専門医・日医生涯研修制度

医学部  
6年間

→

初期研修医  
2年間

→

(後期研修医  
3年間)

→

行政

研究

臨床

社会  
医学  
専門  
医

日  
医  
生  
涯  
研  
修  
制  
度

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

### 1-1) 初期研修医制度

- 初期研修における国際保健への暴露機会
  - ・ 海外派遣事例) 長崎医療センター  
ウイルス肝炎にかかわる国際医療協力  
2年次初期研修医のカザフスタン国立医科大学派遣
  - ・ 海外医師招聘事例) 沖縄県立中部病院、国保旭中央病院、亀田メディカルセンター、トヨタ記念病院、麻生飯塚病院、群星沖縄臨床プログラム 他、複数の大学病院
- 国際保健「政策」人材養成に直接関係する研修機会は見つけれなかった

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

## 1-2)後期研修医制度

●後期研修における国際保健への暴露機会  
主に海外での臨床トレーニング)

- ・国立病院機構 (NHO) 専修医等海外留学:  
Veterans Affairs Medical Center (VAMC)で約1ヶ月間研修
- ・和歌山県立医科大学卒業後臨床研修センター: 米国大学附属病院での研修  
米国大学附属病院から講師を招聘
- ・麻生飯塚病院: ピッツバーグ大学医療センターで開催される  
指導医能力開発コースとリーダーシップ育成コースに派遣。
- ・野口医学研究所: 勤務先病院によらず応募可で、  
約1か月の米国有名大学病院での研修

出典: 医療従事者のホームページより情報提供

●国際保健「政策」人材養成に直接関係する  
研修機会は見つけられなかった●研修医期間に国際保健政策人材に直結する環境整備の  
要不要については今後議論が必要か

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

## 1-3)社会医学専門医制度

## ●制度のあらまし

- ・2017年に専門医制度・専門研修プログラム開始
- ・活躍が期待される分野として「国際保健 (コミュニティヘルス、  
国のシステム) に携わる人材 (国際機関、NGO、  
コンサルタなど) が明記

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

## 1-3)社会医学専門医制度

●国際保健「政策」人材養成に関係しうるプログラム  
は複数存在

- ・兵庫県社会医学系専門医研修プログラム (No.4) :  
WHO神戸センターでの研修
- ・福島県社会医学系専門医研修プログラム (No.35) :  
1年間の海外留学 (公衆衛生修士: MPH取得)
- ・大阪大学社会医学系専門医研修プログラム (No.12) :  
WHO神戸センターやWHO本部ジュネーブへの3~6ヶ月のインターンシップ
- ・厚生労働省医系技官プログラム (No.72) : 国内外での行政官

社会医学系専門医協会認定プログラム (<http://shakai-senmon-lumin.jp/program.html>)

●プログラムを逐一確認しないとわからないので、  
情報が一元化できると便利かもしれない●「国際」保健政策人材と記載がなくとも、国内の  
政策人材養成プログラムを拡大利用できる可能性も!?

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

## 1-4)日医生涯研修制度

## ●制度のあらまし

- ・日本医師会は医師の自己学習・研修のため  
生涯教育制度を実施している
- ・本制度は、医師の研修意欲をさらに啓発・高揚させること、  
一方で社会に対して医師が勉強に励んでいる実態を示し、  
国民からの信頼を増すことを目的としている
- ・83にわたるカリキュラムコードに分類されている。  
「予防と保健」「地域医療」など公衆衛生関係コードは存在する

【日本医師会生涯教育制度のご案内】  
[https://www.med.or.jp/home/about/issai/about\\_gampaiet\\_2017.pdf](https://www.med.or.jp/home/about/issai/about_gampaiet_2017.pdf)

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

## 1-4)日医生涯研修制度

●国際保健「政策」人材養成に直接関係する  
研修機会は見当たらなかった

- 日医の別の取り組みとして、1983年より続く  
「ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム」  
が存在

●国際保健政策人材育成の重要性を医療者にも知って  
いただくために本制度の活用は検討しうるのではないかと

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

## 本学における国際保健政策人材養成関連の取組

## ◎学生交流プログラム

- ・Medical Frontier Program (2010~)  
協定の有無にかかわらず学生交流
- ・上記を開始することで協定校も増加
- ・学生派遣/受入どちらも増加
- ・内なる国際化が進んだ  
(馬場ら 医学教育;47;2:129-132;2016)



## ◎岸本国際交流奨学金制度

- ・本学医学部学部生の海外渡航を経済的に支援
- ・ほぼ全例に奨学金支給

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

### 海外渡航経験学生による事業

#### 若手の育成：高大連携も視野に

公衆衛生学教室のMD研究者プログラム参加学生が設立



学生主体の活動で「若者の方でヘルスケアの課題を解決すること」を活動の軸としている

大学生（医学生）がメンターとなり、高校生にヘルスケア課題解決のための企画を発表してもらい順位を競う



プロフィール  
①20歳、公衆衛生学、公衆衛生学専攻、大阪大学大学院医学系研究科1年。私は「今年度のヘルスケアコンテスト」で最優秀賞を受賞し、②海外でヘルスケアの課題を解決するための活動に参加している。

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

### 本学における国際保健政策人材養成関連の取組

◎公衆衛生セミナー：日本における健康の社会決定要因(疫学各論)  
(公衆衛生学教室：磯教授が主催：毎年開催 今年で9年目)





2018年度 公衆衛生セミナー  
The Osaka Public Health Symposium  
大阪大学 豊中健康イノベーションセンター 第一階 第1ホール  
2018年8月3日(木)、4日(金)、5日(土)  
公衆衛生学教室 磯教授が主催  
主催者：磯教授 7/6日  
日本公衆衛生学会認定専門教育機関  
参加費：無料 無料：2,000円  
①公衆衛生学 ②疫学 ③健康の社会決定要因  
④公衆衛生学 ⑤公衆衛生学 ⑥公衆衛生学  
⑦公衆衛生学 ⑧公衆衛生学 ⑨公衆衛生学  
⑩公衆衛生学 ⑪公衆衛生学 ⑫公衆衛生学

ここ数年は130-150名が学内外より参加

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

### 本学における国際保健政策人材養成関連の取組

◎グローバルヘルス学概論の講義シリーズ  
2016年度より開始（本学と東京ブラフにて）。無料。  
英語による講義。平均して30名×2箇所 が聴講  
公衆衛生学教室：磯教授が主催



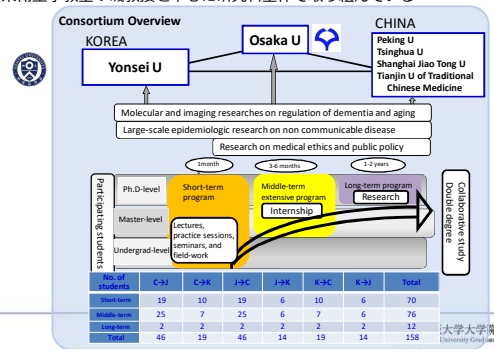
Program	2016-2018	2019-2020	2020-2021
2016-2017	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)
2017-2018	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)
2018-2019	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)
2019-2020	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)
2020-2021	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)	Introduction to Global Health (English)

現在も受講登録受付中

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

### 本学における国際保健政策人材養成関連の取組

◎キャンパスアジアプログラム（2016年度～）  
公衆衛生学教室：磯教授を中心に研究科全体で取り組んでいる



Consortium Overview

KOREA: Yonsei U  
Osaka U  
CHINA: Peking U, Tsinghua U, Shanghai Jiao Tong U, Tianjin U of Traditional Chinese Medicine

Research areas:  
Molecular and imaging researches on regulation of dementia and aging  
Large-scale epidemiologic research on non communicable disease  
Research on medical ethics and public policy

Participating Students:  
Ph.D-level: Short-term program (3-6 months), Middle-term program (6-12 months), Long-term program (1-2 years), Research  
Master-level: Lectures, practice sessions, seminars, and field-work  
Undergrad-level: Research

No. of students	C-U	C-K	J-K	K-C	K-U	F-U	Total
Ph.D-level	19	10	19	6	10	6	70
Master-level	25	7	25	6	7	6	76
Undergrad-level	2	2	2	2	2	2	12
Total	46	19	46	14	19	14	158

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

### 本学における国際保健政策人材養成関連の取組

◎APRU (Asia Pacific Rim University) Global Healthへの参画

APRU-GH Annual Conference の開催 (2015)



書籍の分担執筆(2018)



Global Health Leadership  
Case Studies From the Asia-Pacific  
Editors: Wilbers, Melissa, McCoil, Judith (Eds.)

Brings together an international group of experts in global health from many disciplines and countries through the Association of Pacific Rim Universities (APRU) network.

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine

### まとめ

◎山下班分担研究：  
既存の国内環境整備状況調査の一部について報告した  
→現状で利用可能な資源（及びその情報）の洗い出しを  
更に進め実行可能な政策提案につなげたい

◎本学における、国際保健政策人材養成関連の取組  
について紹介した

大阪大学大学院医学系研究科  
Osaka University Graduate School of Medicine